

2つの支部がコラボした独自の勉強会の講師
として呼んでください。

SATAIDの衛星画像の解析の実習、事例解析と
ATCファイルの作成などを講義に行きます。



新春座談会

気象予報士の技能研鑽とは？

技能講習会講師は語る



気象予報士にとって技能研鑽は必須事項であり、当会でも重要な柱の1つと位置付けています。昨年は気象技能講習会に専門課程が加わり、より充実しました。そこで技能講習会の「最新の予報技術」(以下、「予報技術」とする)を担当する講師にお集まり願ひ、「気象予報士の技能研鑽とは？」をテーマに語っていただきました。出席したのは東京近郊に在住の伊東謙司、大西晴夫、阪本孝彦、下山紀夫、鈴木和史の各氏です。北海道在住の永澤義嗣と香川県在住の三木芳幸の両氏には書面でお話いただきました。

座談会では、

- 1 今年度講師をしての感想
- 2 気象予報士の技能研鑽はどうあるべきか、または、日本気象予報士会会員に望むことをテーマとしたところ、熱い議論が展開しました。司会は下山紀夫副会長が行いました。

▽「満位」の概念は講師も苦勞(A.A.)

下山: 皆さん、明けましておめでとうございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。まず、昨年の技能講習会で講師をしてこられた感想をお願いします。

伊東: 講習時間の休憩時間合せて3時間は、短い気がしました。

大西: 今年度の講習は「満位」が出てきたりして難しかったようです。しかし、話題のひとつに多少難しい話があった方が、「講習会」らしくて、いいのでは？

伊東: 満位概念の説明は、講師も苦勞しました。講習会の後、この解説はどうですかと、すばらしい説明図を書いた質問が届きました。ありがとうございます。(同意の笑い)

鈴木: 知らない世界に興味を持ってもらうことも大切です。満位は気象庁が発表した資料に出てきますから、気象予報士として理解してもらわないと。

下山: エマグラム実習は知識の復習としてよかったけれど、もっと時間を取れたかったですね。

伊東: エマグラム実習は、慣れない人にとっては、プロの気象予報士も結構苦戦していました。

大西: 天気図解析など、多少時間をとって手を動かすことが講習に含まれていると、受講者の評判がいいです。

伊東: 気象技能講習会に参加した気象キャスターの気象予報士さんが「最新の予報技術を学んできました！」とブログに書いてくれました。反響があるのは講師としてうれしいですね。(全員うなづく)

阪本: 講師をやっていると感じるのは、参加者の学習意欲がすごいことです。(講習会の)評判も良かったです。

▽自己研鑽が基本

大西: 受講者の感想では、大体、受けてよかったと言っている。講習会で何かを勉強するというよりは、自分で勉強しなければと思うきっかけになればいいと思います。

鈴木: 気象予報士の学習は自己研鑽が基本です。だから講習会は自己学習へのトリガーになってほしいですね。

阪本: でも、予報技術も専門課程も参加者がほぼ同じ顔ぶれで、プロが少なかったのは残念でした。

下山: 東京の講習会ではプロの気象予報士の参加は少ないが、地方で行うと比率が高いき。活動が活発な支部ほど、講習会参加者が多いし、プロの参加も多いですね。

鈴木: 講習会の短い時間の中で内容をすべて理解してもらおうは無理です。気象予報士の技能向上は自己研鑽が基本です。講習会で新しい知識に触れ、それが自己研鑽の動機付けとなるよう講師として工夫しています。

大西: 特論と専門課程はそれぞれの目的が決めているのだが、実際にはほとんど同じ人が受けているのでは。もう一度整理しなおす必要があるように思います。

下山: CPD制度が発足すると会員、非会員に関わらずプロの気象予報士が講習会に参加しなくなると。この時、専門課程は重要な講習会になる。試行錯誤しながらも発展させなければならぬ。

阪本: 講習内容としては、深く掘り下げた講習は専門課程、広く伝える講習は予報技術にするなど考慮の余地があるが、講習を受ける人の満足度が大切。

鈴木: 出前講座などのプロジェクトはあるが、気象予報士の技能が社会貢献できる機会がまだ少ない。気象予報士の技能が社会貢献できる機会を日本気象予報士会はもっと企画して欲しい。ところで気象庁発表資料を、きちんと理解し解説できる気象予報士は、どれくらい居るのかな。

阪本: 気象予報士の必須レベルは、気象庁が発表している各種資料がきちんと理解できて一般の人に解説できるレベルにあることだと思う。

伊東: 最近の「短期予報解説資料」など専門的な難しい用語が使われていて、理解しにくいことがある。

鈴木: 「短期予報解説資料」に対して、これは違うって批判できるレベルになってくれたらうれしいですね。



下山: その点から言えば、予報技術については、気象庁の「予報技術研修テキスト」に沿った内容が今後とも必要でしょう。

伊東: 顕著現象の理解を深めるため、気象庁ホームページに掲載されている「災害をもたらした気象事例」(災害時気象速報、異常気象の特徴と要因に関する情報等)を材料としたテキストを引き続き作成するのは賛成です。

下山: 講習会では、その年の顕著現象はテーマとして必須。でも講師側とするとデータを集めるのがきつい。(ため息と笑い)

下山: 予報技術のレベルがやや高度になっているから、よりやさしい、気象予報士入門コースも必要ありそう。

伊東: (書面参加の)三木さんが「解析技術の研修が必要」と言っていますが、基礎的な解析技術の研修は天気図検討会のような形で各支部単位の例会の中でマメに自己研鑽する必要があると思います。

▽SATAID出張講師です

大西: 自分で天気図を描いたり、衛星画像を重ねたりできると面白さが増します。自己研鑽ができるためのツールを提供することも必要。PC研修が提供している「晴れてほしー」やSATAIDの利用が進めば誰でもできそうだが。

伊東: 2つの支部がコラボしていれば、技能講習会なみの独自の勉強会に講師を呼べる。SATAIDの基礎と活用、衛星画像の解析の実習、事例解析とATCファイルの作成などを講義していきたいと考えています。

▽「どンドン」陳腐化、「どンドン」来て、来て!

大西: 気象予報業務は年々変化している。気象予報士資格は終身資格だが、勉強しないと、どんどん陳腐化する。技能講習会はこれらの新しい動きの情報を得る機会であり、本当は気象予報士全員(会員全員)に受けてもらいたいと思う。

鈴木: 予報技術については、気象予報士は毎年講習を受けて欲しい。

下山: そのためには、講師(予報技術)も気象庁OBだけではなく、経験と力のある人がたくさんいるのだから、全国的にもっと増やそう。

阪本: とにかく講習会にどンドン来て欲しいよ。全員: そうそう、「どンドン」だよ。(笑)

下山: 今年は多くの会員に、これまで以上にどンドン来ていただいで、高い技術を持った気象予報士を増やしていきたいと思う。お忙しい中ありがとうございます。

▽プロの気象予報士の利益を重視する組織へ

永澤義嗣氏の文書でのコメント

1. 今年度講師をしての感想

気象を職業としている人の参加がほとんどないことに驚くとともに、そうした現状を再認識した。気象を職業としている人はどうやって技能向上に取り組んでいるのか。彼らにとって気象技能講習会は技能研鑽の場としての魅力に乏しいのか。現状では、技能講習会は単なる気象愛好家の勉強会となっている。

2. 気象予報士の技能研鑽はどうあるべきか、または、日本気象予報士会会員に望むこと

気象を職業とする気象予報士の技能研鑽の場は必要であると思う。その場として、気象業務支援センターは充実した講習会を開講している。日本気象予報士会が、気象を職業とする気象予報士の利益をより重視する組織への転換を指向するならば、それなりの態勢で臨む必要がある。そうではなく、気象愛好家団体としての性格でよしとするならば、現状でもある程度役割を果たしていると思う。

結局、日本気象予報士会会員が何のために気象予報士の資格を取得し、何のために日本気象予報士会に入会したのかによって、日本気象予報士会としての技能研鑽活動のあり方が決まってくるのではないかと。

3. 技能講習会講師として

気象予報士たちが、それぞれどのような目的で気象予報士になったのかにかかわらず、各種気象データと格闘して現象の本質に迫る面白さを体験をするお手伝いをさせていただきますと思う。

▽顕著現象の理解を深めよう

三木芳幸氏の文書でのコメント

1. 今年度講師をしての感想

講習時間を休憩時間合せて3時間に取りましたが、少し無理があったようです。気象庁の今後の改善計画は興味があったようで、アンサンブル予報等に多くの質問がありました。大雨についての講演資料内容が濃厚で、当初目にする方には理解が難しかったのではないかと思います。満位概念の説明での数式の理解が難しい方が見受けられました。

エマグラム実習では、まず指定気圧面だけをプロットし状態曲線を引き、そのあと特異点プロットしていた方が見受けられました。経験のある方を中心にグループ分けで行えばよかったと反省しています。高層気象観測の対流不安定の説明に偏微分表示があり、式の理解が難しい方も見受けられました。

2. 気象予報士の技能研鑽はどうあるべきか、または、日本気象予報士会会員に望むこと

予報資料の解析には、基礎的な解析技術が必要で、この面での研修が必要です。顕著現象の理解を深めるため、「災害をもたらした気象事例」(災害時気象速報、異常気象の特徴と要因に関する情報等)を材料としたテキストを引き続き作成していきたいです。

3. 技能講習会講師として

長年、予報業務に従事してきたので、その経験を基に気象予報士の方のお手伝いができればと思います。



左から 鈴木講師、下山副会長、大西講師、伊東講師、阪本講師